

山口カトリック教会報

サビエルの鐘

第 43 号



クリスマスの卵

外川 直見 神父



神学生のときです
から、今から 50 年
以上前のことです。
岩国教会にクリスマ
スの手伝いに来てい
ました。24 日の夜は

クリスマスイブ、とても賑やかでした。幼稚園の舞台を借りて合唱、劇、ビンゴなど賑やかな時間でした。その後、クリスマスミサ、何人かの洗礼もあり、クリスマスおめでとうの挨拶とともに家路につきました。

そして翌朝、静かなミサでしたが、一人の子供の洗礼式がありました。幼稚園の園児、ヤックんの洗礼でした。司祭と洗礼志願者の間で、「教会に何を求めますか」「信仰を求めます」「信仰によって何が与えられますか」「永遠の生命が与えられます」と問答が続きます。司祭がヤックんに「教会に何を求めますか」と尋ねました。ヤックんに替わって代父が答えようとしたその時、ヤックんが「うーん、うーん、何がいいかなあ」それで代父が止まってしまう、周りの人たちの眼もヤックんの口元に注がれました。「何にしようかなあ」そして突然「あの、たまご」との返事。周囲は一瞬戸惑って、一斉に笑い出しました。ヤックんは大真面目に周りを見回しています。司祭はしばらくののち、「ああ、たまご、いいお願いだね。ごミサが終わったら、皆でいただくね。それで今はね、神さまと心から仲良くなれるようお願いしよう」と、まとめました。

聖堂入口での式の部が終わり、祭壇前に移りました。ヤックんはとても満足そうでしたが、祭壇の前に来た時に、飾られていた飼葉桶の幼子イエス様にぴよこんとおじぎを

して「ありがとう」と小さな声を掛けました。周囲の人たちもそれを見てそっとおじぎをしました。「イエス様、有難うございました」との声はヤックんのお祖母さんだったと思います。イエス様は飼葉桶で静かに眠っておられましたが、そっと眼を開けてヤックんに「よかったね、うれしかった」とにっこり微笑まれたようでした。

たまごはイースターの喜びのしるし、イエス様のご復活、永遠の生命の象徴です。クリスマスの日、イエス様は誕生されて、飼葉桶の中で眼はまだ開いていないでしょう。しかし、眼はつぶっていても、その霊的な眼差しで飼葉桶から 33 年間の地上での生活を見つめ、また、十字架上でご生涯を御父に奉献される道を見つめておられるでしょう。さらに、その奉献が復活の新しい永遠の生命に包まれることも霊的な眼差しは見つめておられるでしょう。たまごはご復活の象徴だけでなく、イエス様のご誕生からご復活までのご生涯の象徴でもあるでしょう。それならば、ヤックんが洗礼の時にたまごを願ったのは正しかったかもしれません。

今年迎えるクリスマス、イエス様のご誕生を心からお祝いして、たまごの心も大切にしたいです。そして、ご誕生から始まりご受難、ご復活を通して生まれる新しい永遠の生命に包まれるように、たまごを静かに見つめて祈りましょう。



山口のクリスマスのご大切

酒井 陽介 神父

ここで皆さんと山口でのクリスマスのことを分かち合います。それは、むかーしむかしの宣教師たちが、最初に祝ったクリスマスのこと。とはいえ、今からお話することは、私の想像でしかありません。いや待ってください、なんだか、誰かが私の中に、、、まあ、今しばらく、私の話にお付き合いください。

…時は、一五五二年、周防国の山口の冬は、本当に寒い夜でした。そんな十二月二十四日の真夜中に初めてクリスマスが祝われました。雪がこんこんと降りしきるこの盆地に、キリスト教が伝わったのは、ほんの前年のこと。その責任を負っていたサビエルさまは、山口をパードレ・トーレスに託して、すでに中国宣教を目指し、日本を後にしていたから、今年の雪化粧の冬を知りません。でも、後から伝え聞くところによれば、広東省近くのサンシャン島で十二月三日には、亡くなったという。悲しいな。寂しいな。また天国で会いたいな。少しでも、山口のことを思い出して下さったかな。サビエルさまは、中国には渡れなかったのか。無念だったかな。いやいや、あのかたはいつだって、前向きな方だった。きっと後から誰かが引き継いでくれるって信じていたに違いない。そして、神さまに委ね切って息を引き取られたに違いない。

イエス様の教えを誰も知らなかったこの土地に、よく来られたな。みんなで力を合わせて、イエス様について話したな。話を聞いてくれた人もいれば、石を投げてきた人もいました。よく井戸のところで、話したものです。そういえば、この私も、この井戸で話しているサビエルさまのたどたどしい日本語に最初は笑ってしまいました。でも、そのうちに、彼の優しい声と一生懸命に話しているイエス様についての話に引き込まれていきました。こんな力のもらえる、心が喜びでいっぱいになる言葉は聞いたことはありませんでした。キリシタンになりたいって思って、こんな私でもなれますかと、ある日、サビエルさまに聞くと、すごく喜んでくれて、あなたの心もちが大事だからとおっしゃって。それから、イエス様について教えてもらって、この山口で洗礼を受けました。今は、大内のお殿様のご厚意で、使っていない寺をいただき、教会にしつらえました。山口で初めての教会です。今でも、あの洗礼の喜びを山口のみんなに分かち合いたくって、パードレたちと付近の村を回っています。イエス様のご大切を、みんなに伝えたいな。



そう、今日はクリスマス。この山口でイエス様の誕生を祝おう。住むところもなく、点々としていた聖家族。なんだか、去年の私たちみたいだな。寒くて、ひもじくて。でも、イエス様が一緒にいるって信じていたから、がんばれたな。山口に、イエス様がお生まれになる！山口は、ベトレヘムになった！山口の空に、天使たちが歌っている。グロリア・イン・エクチェルシス・デオ！天のいと高きところに神に栄光あれ！この山口にも、たくさんの聖

家族がいます。みんな、いろんなことにチャレンジしています。みんな頑張って生きています。みんなの家に、イエス様が生まれますように。サビエルさま、天国から見えますか？山口で、素敵なクリスマスがおいできました。これからも彼らは、イエス様のご大切を分かち合って、みんなに伝えてくれますよ。

そう私は、誰かって？私は、琵琶法師のロレンソです。話好きなので、山口での最初のクリスマスのお話を分かち合わせていただきました。今どこにいるかって？今はもう天国におりますが、こうやって山口教会のことを思い出して、お祈りしています。そうそう、サビエルさまも天国からいつもお祈りしていますよ。大切な山口教会のために、今も、いつも…。

皆さま、クリスマスおめでとうございます！（これは酒井本人です。）

心からの感謝を亡き家内とともに

古谷好夫



内外ともに厳しい世情を憂い、一日も早く平穏な日常に戻るよう、神に祈る今日この頃です。

私の家族は、家内は古くからのカトリック信者で、子供も幼児洗礼を受けており、私ひとりが残されていました。そのことでいつも家内は私の機嫌のよい時を見計らい、「お父さん、一緒に教会へ行きましょう」と誘ってくれます。しかし私はその都度、仕事等を理由にして逃げていました。私は地方公務員で土木関係の仕事に携わり、台風や大雨の災害時には休日も返上、昼夜を問わず管内の各地を調査で走り回り多忙でした。しかし通常の日には暇が取れ、時には家内と日曜ミサに参加し、その雰囲気心が洗われる思いも幾度か経験しました。時は過ぎ、私の定年の三年前。周防大島から山口の事務所へ転任し、家から通勤できることで、長年私の教会行きを勧めてくれる家内の根気に負け、「私が県庁を退職したらあなたの言うとおりにする」と約束し、平成三年の春、四十余年の公務員生活を無事卒業した後は、約束通り家内と教会行事に精勤し、勉強会にも約四年間通って神の教えを学びました。神父様から、「そろそろ受洗しては」と言われ、平成六年、山口教会で洗礼を授かり、皆様の仲間に入りました。その日の夕食時、家内があらたまって、「私は生まれて五十六年、今日が一番うれしい日です」と涙ながらに喜んでくれ、その声、その顔は私の胸に焼き付き、生涯忘れることはないでしょう。この日をもう少し早く迎えてやれば、と家内に詫びる思いでした。それから約二十年間、私の生活・生きざまはいつも家内と一緒にしました。

HOW ARE YOU ?

コロナ禍でなかなかお会いできない
方々にメッセージをいただきました

しかし人生には山あり谷ありで、思わぬ出来事がある。それは十一年前、東北震災の前々日、それまで元気だった家内は突然脳梗塞で倒れ、入退院をくり返し、帰らぬ人となりました。家内の入院中は見舞う度に家内の好きな童謡、大好きだった『きよしこの夜』の賛美歌を歌ってやると、いつも静かに眠りに就きます。これが私の日課でしたが、二年前からコロナのために病室にも入れず、週一度の面会日はガラス窓越しで、少し離れた車椅子の家内の顔ははっきり見えず、大好きな歌も歌ってやれず、残念な日が続き、家内は日増しに老衰が進んで水も喉を通らず、医師からは、もう長くないと聞かされ、覚悟はしていましたが、本年三月二十三日、天国へ旅立ちました。その永眠直後の顔は眠るように安らかでした。それを見て、「これでよかったのだ」と私の心は穏やかでした。家内は長い入院生活の中で、「早く家に帰りたい」とは言っていました。苦しむことはほとんどなく、あの体で八十九歳の長寿までよく頑張りました。これは常日頃からの神父様や仲間の皆様のお祈りの賜物であり、加えて大好きだった「きよしこの夜」がいつも家内の心を癒やしていたものと思います。賛美歌は家内の心の宝です。いま家内は住み慣れた我が家で静かに眠っております。朝夕賛美歌を歌ってやり、過ぎし日の思い出話を聞かせてやるのが私の日課です。この一筆の主旨は、長年家内の心を支えてくださった神父様や仲間の皆様に、亡き家内が心から感謝したい思いを私が代筆したものです。ありがとうございました。

老いは恵み

斉田睦美



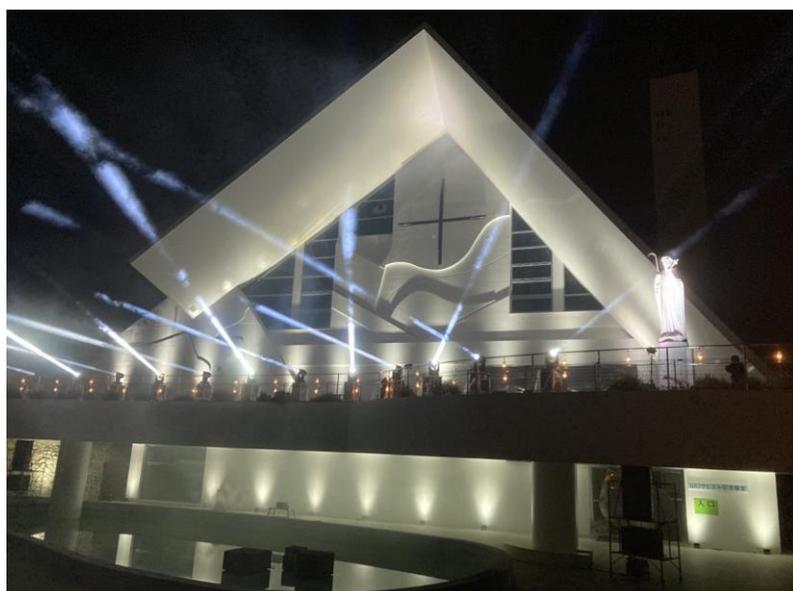
『老いは恵み』、これはある神父様の著書で、五十代の後半に買いました。六十代に入れば嫌でも老人の仲間入り…私はそれに多少の違和感を覚えたのでしょうか。それから六十歳になりました時、希望の初孫が生まれ、翌年次女に年子が生まれ一気に三人のおばあちゃんになりました。この三人は神様からの贈り物でございます。喜びの日々でした。それから昨年一月に九十歳を迎えました事に感謝いたします。これまでの永い月日には色々な時がありました。その味には甘味・辛味・苦味・渋味・酔味など…まだたくさんあります。その味の一つ一つがミックスされ、今ではとても美味しいスパイスが出来ています。これが老いの恵みなののでしょうか。コロナが始まってもう三年が経ちます。最初の頃は私達にとりまして大事なごミサも中止になりました。そして好きな散歩も中止、外食も中止、友人達との集いも中止…寂しい思いもしました。でも私達は聖霊のお導きにより大切な祈りがございます。祈りは何時でも何処でもどんな時でもお捧げ出来ます。祈ることによって愛は大きく膨らんで参ります。お祈りが一番でございます。私はとうとうあの本は読めませんでした。神父様すみません、お許し下さいませ。



七五三の祝福

11月13日の主日ミサの中で、三人が七五三の祝福を受けました。

(写真左) 高木優源くん、弘中友梨乃ちゃん (写真右) 秋吉葉瑠くん



12月、山口市はクリスマス市になる

12月1日、『12月、山口市はクリスマス市になる』のセレモニーと光誕祭が、3年ぶりにサビエル記念聖堂にて、リアル開催されました。聖堂の鐘、パイプオルガン、聖歌隊による聖歌の奉納、主任司祭の話に続き、アーティストの歌の奉納でクリスマスムードが一気に高まりました。光誕祭では、初めて山口でクリスマスが祝われた史実が音楽と光で表現され、より一層、クリスマスを待ち望む喜びに満たされた夜になりました。

行事予定

- 2023年1月1日(日) 新年のミサ(9:30~、11:00~)
- 2月23日(木) オルガンレクチャー(大人対象)
- 3月3日(金) 世界祈祷日

編集後記

新しい年のカンガスカレンダーが今年も作成された。前回から1枚の写真カードが添えられているが、今回のもとても素敵な写真で、司祭どうしの心からのつながりがあふれている。幸せな気持ちが、見ているこちらにも伝播する。イエスが私たちに求めておられる平和・シャロームはこんなだろうと思う。新しい年を迎え、私も心からのシャロームをわかち合える人を、少しでも増やせたらなと思わずにはいられない。(首藤)

発行 山口カトリック教会
 発行責任 主任司祭アルフレド・セゴビア
 編集 山口カトリック教会 広報部

〒753-0089 山口市亀山4-1
 tel. 083-920-1549
 hp検索 山口カトリック教会
 e-mail xavier@xavier.jp

2022年 12月 25日発行